

災害復旧事業によせて

平成16年災 五十嵐川災害復旧助成事業について

～安心・安全に暮らせるまちを目指して～



三条市長
國定 勇人

1. はじめに

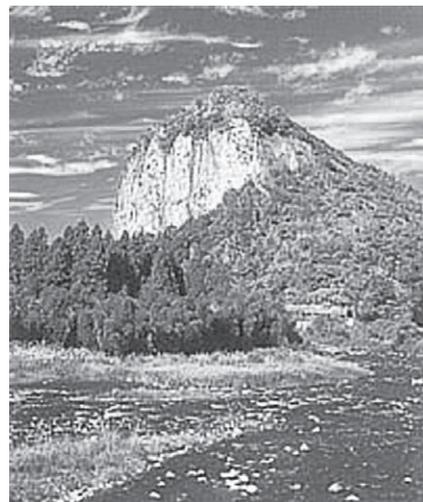
このたび、一級河川五十嵐川災害復旧助成事業について、沿川自治体としてご紹介の機会を得ましたことに対して、深く感謝とお礼を申し上げます。

平成17年5月1日に旧三条市、旧栄町、旧下田村が合併して誕生した三条市は、人口10万5千人、面積432km²で新潟県のほぼ中央に位置し、粟ヶ岳・守門岳に代表される県立自然公園の緑豊かな自然を有し、大河信濃川とその支流五十嵐川と刈谷田川の豊かな水と肥沃な大地の恵みによる米どころとして、また、江戸時代の和釘作りに端を発した金属産業が盛んなまちであります。

また、上越新幹線や北陸自動車道などの高速交

通体系の拠点を持つほか、国道8号、289号、403号などの交通網が整備されており、国道289号福島県境区間は、古くから「八十里越」と呼ばれ、将来は福島県まで開通するよう、現在工事が進められています。

これら本市の持つ地域資源を最大限に活用しながら、市民一人ひとりが幸せを実感し、次代まで住み継がれるまちとするために、目指すべき将来都市像を「豊かな自然に恵まれた 歴史と文化の息づく 創意にみちた ものづくりのまち」と定め、その実現に向けたまちづくりを進めています。



景勝“八木ヶ鼻”

高さ200メートル以上の石英粗面岩の壁が五十嵐川の上流にそそり立ち、岩肌が朝日に照らされる姿は神々しくもあります。

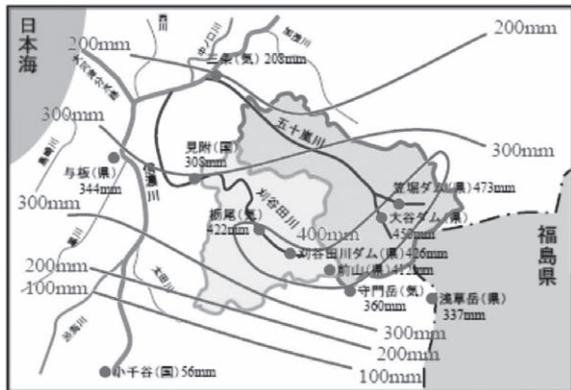
自然の恵みを一身に受け、春は淡く、夏は強く、秋は艶やかに、そして冬はしっとりと、季節の度に塗り替えられる絵画のように訪れる人の目を楽しませてくれます。

2. 平成16年7.13新潟豪雨

日本海から新潟・福島県境付近に停滞していた梅雨前線は、平成16年7月12日夜から活発化して大雨になり、特に13日朝から昼過ぎにかけて、三条、長岡地域を中心に非常に激しい雨が降りました。

梅雨前線は14日に東北地方まで北上しましたが、15日には再び新潟県付近に停滞し、16日から18日朝にかけて中・下越地方で激しい雨が降り、18日に福井県付近に南下するまで大雨が続きました。

五十嵐川・刈谷田川流域の等雨量線図 (24時間最大)



※24時間の降雨の期間は、観測所により異なるが、概ね7月13日の1:00~24:00である。

三条地域では、五十嵐川上流の笠堀ダム観測所で、降り始め(12日19時)からの総雨量が486mmを観測するなど、記録的大雨となり、五十嵐川では、信濃川との合流点から1.2km~3.7km区間で越水するとともに、諏訪地区(左岸)では、約117mにわたり堤防が決壊しました。

この洪水氾濫で、五十嵐川が貫流する三条市では、9名の尊い人命が失われたほか、左岸側(嵐南地区)を中心に市街地のほぼ全域で、道路の冠水、住宅の浸水など、甚大な被害が発生しました。

【平成16年7.13新潟豪雨による被害状況】(三条市関係)

人的被害	死者	9名
	重傷	1名
	軽傷	79名
浸水面積	宅地	490ha
	農地	830ha
建物被害	床上浸水	6,839戸
	床下浸水	742戸



北新保地区(左岸) 浸水状況 (H16.7.13)



三竹地区(右岸) 越水状況 (H16.7.13)



三条市街地 浸水状況 (H16.7.14)



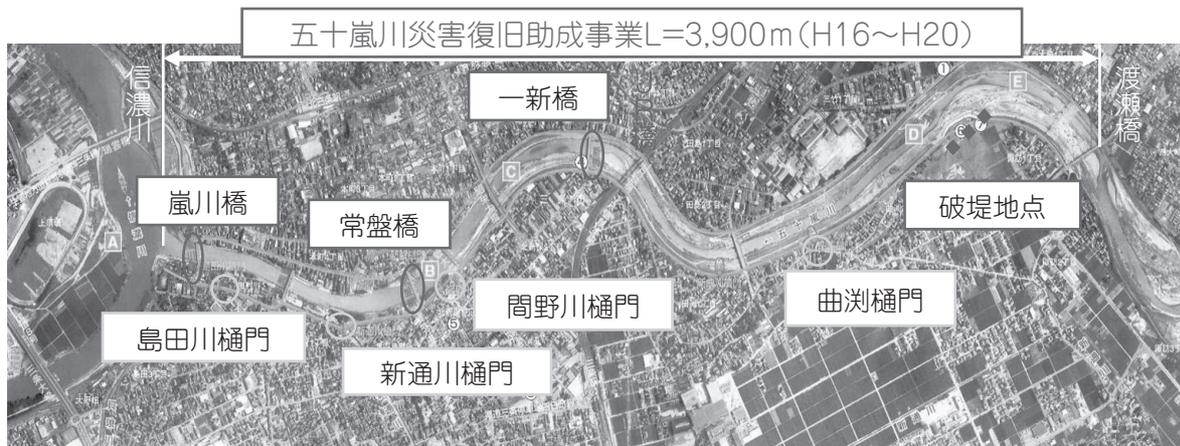
諏訪地区(左岸) 破堤状況 (H16.7.14)

3. 五十嵐川災害復旧助成事業

三条市街地に甚大な被害をもたらした五十嵐川の下流部について、被災した施設の復旧（原形復旧）だけでは、平成16年7.13新潟豪雨と同規模の洪水に対応できないため、被災流量を安全に流下させ、再度災害の防止を図る観点から、平成16年に国土交通省所管の災害復旧助成事業が採択され、現在、新潟県により事業が実施されています。

【五十嵐川災害復旧助成事業の概要】

河川名：一級河川信濃川水系五十嵐川
事業期間：平成16年度～平成20年度
事業延長：3.9km（信濃川合流点～渡瀬橋）
工事内容：河積拡大（被災流量に対応）
河道工…河道掘削および築堤
護岸工…掘削、築堤に伴う護岸施工
附帯工…橋梁架替（県・市道橋3橋）
支川排水機場改築（6基）



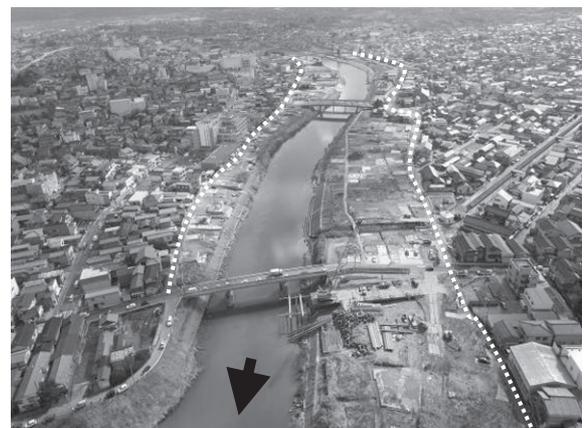
●用地および補償関係の進捗状況

事業着手にあたり、全体で約7万5千㎡の用地買収及び約4百棟の物件移転が必要となりましたが、甚大な被害をもたらした五十嵐川の抜本的な

改修事業を進めるうえで市民の全面的な理解と協力をいただくことができ、平成19年度末には全ての契約を完了することができました。



信濃川合流点付近 家屋移転前（H17.7月）



家屋移転がほぼ終了し、工事に着手（H19.2月）

●工事関係の進捗状況

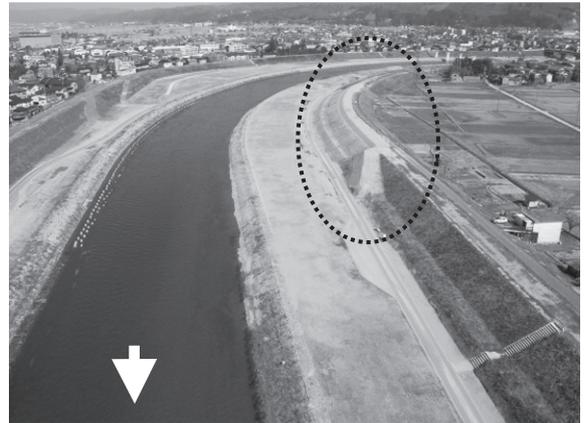
用地買収を必要としない上流工区（JR橋～渡瀬橋）から河道工事に着手し、平成19年度末までに事業区間のほぼ全川で、掘削、護岸、築堤（計画高水位まで）を概成し、現在は主に市街地で橋

梁および排水機場の改築工事を進めています。

住宅密集地での工事のため、振動、騒音対策に配慮しながら工事を進めています。今後も新潟県および関係機関と連携して、一日も早い事業の完成を目指しています。



本町（右岸）～北新保（左岸）の河道工事
完成状況（H20. 3月）



7.13水害時の破堤地点（諏訪地区）の河道工事
完成状況（H20. 3月）



架け替え前の「木橋」のイメージを強調した
（新）「一新橋」



一新橋開通式（H19.6.3）
市民参加によるイベントが行われた

4. 市民参加による川づくり

災害復旧助成事業による五十嵐川の抜本的な改修工事を進めるにあたり、市民の意見を取り入れた改修計画の作成および助成事業完成後の五十嵐川を、緑豊かな自然を守り、市民の憩いの場として育み、市民が共有する財産として次の世代に引き継ぐとともに、地域の活性化に資することを目的として、各種の検討会を新潟県と共同で開催し、市民参加の川づくりを進めています。

●五十嵐川に関する検討会

古くから市民との関わりが深い五十嵐川を、環境にも配慮し市民に愛される川に改修するため、助成事業の計画段階から市民の意見を取り込むこととし、平成17年度に「五十嵐川に関する検討会」、平成18年度に「五十嵐川に関する検討会Ⅱ」を開

催し、公募市民や商店街、自治会の代表などと、河道計画や橋梁の高欄、照明のデザインなどについて、検討を重ねました。



「五十嵐川に関する検討会Ⅱ」の状況

●五十嵐川維持管理に関する検討会

助成事業完成後の五十嵐川を、市民の憩いの場として育み、貴重な財産として次の世代に引き継ぐとともに、地域の活性化を図るため、沿川の自



市民による堤防の草刈りの状況（H19.7月）

市民の憩いの場として次世代に引き継げるよう、官民協働による維持管理の実現を進めています。

治会や関係団体とともに、「五十嵐川維持管理に関する検討会」を平成19年度に開催し、自治会や企業、関係団体などを交えた具体的な維持管理の方法について検討しています。



小学生による鮭の稚魚放流（H20.3月）

五十嵐川では、川の生き物に関する学習も盛んに行われています。

5. おわりに

本市ではこの大災害を教訓に、安全に安心して暮らすことの出来る災害に強いまち「三条市」を創り上げていきたいと考えています。

現在取り組んでいることは、万一災害が発生した場合に備え、大規模災害や有事の際に通信衛星から発信される情報を同報系防災行政無線を活用して提供する「全国瞬時警報システム」の整備や災害時要援護者の避難支援対策として、より確実な人命救助のため名簿搭載に不同意の意思表示があった方以外は原則として登載する「逆手上げ方式」による災害時要援護者名簿の整備です。

これらを進めることにより、自助、共助、公助の基本的な考え方に基づく援護体制の構築を図り、国や県の協力のもと進められている五十嵐川、刈谷田川の改修や両河川が合流する信濃川の改修事業と合わせて、災害時には一人の犠牲者も出さないような運用ができるようにしたいと考えております。

最後に、災害復旧に際し、国土交通省、新潟県をはじめ、多くの関係機関各位に賜りましたご支援に対し、心から謝意を表しますとともに、今後とも災害に強いまちづくりに努力いたします所存でありますので、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます、この稿を終えます。



「五十嵐川 暮らしの安全 子に孫に」

市民から、五十嵐川改修事業のシンボルマークとキャッチコピー約400点を応募いただきました。

地域の復興、愛される五十嵐川、工事の安全な施工を目指して、優秀作を工事用車両や看板などに使用しています。